

I 第33週の発生動向 (2009/8/10~2009/8/16)

- インフルエンザについては、迅速診断キットによる各保健所管内の内訳は、弘前 (A:36人)、八戸 (A:6人)、五所川原 (A:7人)、上十三 (A:23人,B:4人)、むつ (A:1人)、青森市 (A:11人) でした。
- 手足口病については、青森市保健所管内において、前週に引き続き**警報**が発令されています。

II 第33週の新型インフルエンザ (A/H1N1) 情報

() 内は累計です

	東地方	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ	青森市
確定患者	-	3(7)	2(6)	1(4)	8(10)	0(1)	4(6)
疑似症患者	-	16(58)	5(19)	2(4)	20(44)	5(13)	20(27)

III 第33週五類感染症定点把握

注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森累計		増減数 <small>(前週からの増減)</small>	東地方(再掲)				青森市(再掲)				定点数					
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		
小児科 +内科 (85) インフルエンザ	11	0.8	36	2.4	6	0.4	7	1.0	27	3.0	1	0.2	88	1.4	45	2	1.0	9	0.8										
小児科	(74) RSウイルス感染症			1	0.1								1	0.0	0														
	(75) 咽頭結膜熱	3	0.3	2	0.2	1	0.1				3	0.8	9	0.2	1	2	2.0	1	0.1										
	(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.4	3	0.3	1	0.1	1	0.2	8	1.3	4	1.0	21	0.5	-3			4	0.5									
	(77) 感染性胃腸炎	19	2.1	3	0.3	11	1.2	7	1.4	3	0.5	7	1.8	50	1.2	-3	4	4.0	15	1.9									
	(78) 水痘	4	0.4	5	0.6	4	0.4	2	0.4	1	0.2	5	1.3	21	0.5	-7	1	1.0	3	0.4									
	(79) 手足口病	88	9.8	44	4.9	2	0.2	4	0.8	1	0.2	13	3.3	152	3.6	-33	3	3.0	85	10.6									
	(80) 伝染性紅斑	1	0.1									4	1.0	5	0.1	0			1	0.1									
	(81) 突発性発しん	2	0.2	6	0.7	1	0.1	1	0.2	6	1.0	4	1.0	20	0.5	-4			2	0.3									
	(82) 百日咳														0														
(83) ヘルパンギーナ	6	0.7	6	0.7	2	0.2	2	0.4	1	0.2	4	1.0	21	0.5	-8	2	2.0	4	0.5										
(84) 流行性耳下腺炎	3	0.3	3	0.3	1	0.1			1	0.2	1	0.3	9	0.2	-8			3	0.4										
眼科	(86) 急性出血性結膜炎													0															
	(87) 流行性角結膜炎	1	0.5							1	0.5			2	0.2	0			1	0.5									
基幹	(95) マイコプラズマ肺炎			1	1.0	4	4.0					2	2.0	7	1.2	-2													
																東地方	2	1	0	0									
																青森市	12	8	2	1									
																弘前	15	9	3	1									
																八戸	14	9	2	1									
																五所川原	7	5	1	1									
																上十三	9	6	2	1									
																むつ	6	4	1	1									
																合計	65	42	11	6									

■ は警報、■ は注意報。「空欄」：患者発生無し。

IV 表II以外の感染症法対象疾患 (注：届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患)：弘前5人 (21年計:226人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)：八戸3人、上十三1人 (21年計:17人)
- (55) レジオネラ症(四類全数把握疾患)：上十三1人 (21年計:5人)

過去の全数把握疾患については、月報をご覧ください。

感染症の窓

ウエストナイル熱 (四類全数把握疾患)

蚊に媒介される感染症には、デング熱、ウエストナイル熱、黄熱、日本脳炎などがあり、いずれもフラビウイルスに属します。このうち、ウエストナイル熱は、アフリカ、中近東、西アジア、ヨーロッパ、北米などに分布し(右図)、国内感染例はありませんが、2005年、海外より帰国した男性が感染した輸入感染症例は報告されています。本事例の患者は、約8日間、米国に滞在、帰国後に発熱、頭痛、発疹が現れ、その後回復しました。本疾患の潜伏期間は、2~14日で、突然の発熱、頭痛などが現れ、日本脳炎同様、重篤な急性脳炎を起こすこともあります。自然界では、コガタアカイエカ、ヤブカなどが媒介し、トリやヒト等へ感染します。海外へ渡航される方は、夜間の外出はできるだけ控え、蚊に刺されない服装や虫避け剤を使用するなどの注意が必要です。

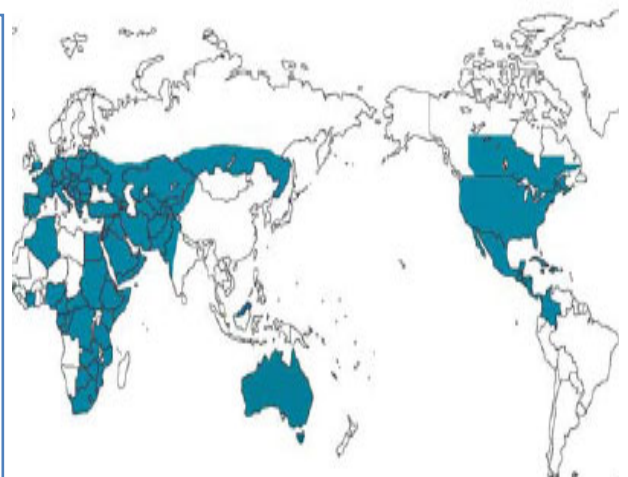


図 ウエストナイル熱の流行地域(青部分)

出典：国立感染症研究所